

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	府中市住吉町 2 - 3 0 - 4 7
園名	府中市立住吉保育所

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜（ゴーヤ・しいたけ・ピーマン）

<テーマの設定理由>

園庭の日当たりの良さから、プランターでの栽培ができる環境にある。また、食べることが大好きな子どもたちが、「給食に入っている野菜は、どのような形をしているのかな？」、「どのように大きくなるのかな？」と実際に野菜を育てる過程で感触、匂い、色の変化、断面等に興味をもっているため、顕微鏡などのアイテムを使って興味をもてるような環境を作り、「なぜだろう？」、「もっと知りたい」という探究心を探るため。

2. 活動スケジュール

- ・野菜はどのように育つか、想像したり知っている知識を伝え合ったりして、一緒に考える。
- ・プランターやしいたけの原木を置く場所を考え、図鑑を用いて調べやすい環境を設定する。
- ・実際に野菜を育て、気づいたことを共有し記録する。
- ・気づいたことをクラス全体で共有し、振り返りの時間を作る。また、今後の探究活動につながるよう投げかけていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

土、シャベル、図鑑、飼育ケース、プランター、野菜ネット、気づいたことを描く用紙、じょうろ、電子顕微鏡、霧吹き、水やり当番など

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・野菜の成長や気づきを友だちや担当と共有し、記録に残した。
- ・野菜の栽培を通じて、実際に収穫し、食すことで、変化や味、匂い、感触など、五感に触れた。
- ・野菜の水やりなどの世話をしながら、そこにつく虫に興味をもち、観察や飼育を行い、生態について探求した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「大きくなっている」、「虫がいる」、「腐っている？」など、気づいたことを興奮しながら言葉にして伝え合っていた。また、その声を聞いて周りの子も刺激を受け、気にかけていた。
- ・野菜の栽培に伴い、周りで見つけた虫や野菜の中に入っていた虫に興味ที่広がり、飼育をした。
- ・収穫した野菜のメニューを考えたりしながら、給食の先生にも相談や協力してもらった。
- ・しいたけの栽培を行う中で、しいたけができるまでの工程を掲示し、子どもたちが見て興味関心を持てるようにするとともに、共に考えられるような環境を整えた。また、なかなか芽が出ない場合は、子どもの考えを尊重し、実験と称してしいたけの原木を置く場所を考えた。それぞれの様子を見比べたり、新聞を作成したりして共有し、「この場所がしいたけができるいい場所だったんだね」という子どもたちのよい発見となった。
- ・ピーマンを収穫した際、穴が開いていることに気づき、開いてみると虫を発見したことで、虫を飼い始める。図鑑で調べ、『ようとうむし』とわかり、どの葉っぱが好きなのか、各クラスでも育てている野菜の葉っぱも含めて『ようとうむし』に食べ比べをさせて、観察をした。「ナスが一番すきだったんだね」と子どもたちの新たな発見に繋がっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・しいたけは時期や日当たりなどの環境的にも難しさを感じた。
- ・限られた期間での取組みだったため、変化が見やすいもの良いと思う。
- ・家庭で野菜の栽培をしている子や、生き物に興味がある子が生き生きと知っている知識を伝える姿を見て、輝くことができる場ができたことは良かった。
- ・普段使わない道具（霧吹きや電子顕微鏡など）を使用することによって、水やりを積極的に行い、野菜の成長や気づきに興味をもつ子が増えた。
- ・虫に興味ที่広がったことで、飼育をしたり、虫の好きな葉はどれか実験をしたり、毎日のように飼育ケースを眺めたり触れたりする姿につながっている。
- ・子どもの気づきや思いに寄り添い、電子顕微鏡や図鑑などを利用し、「もっと知りたい」、「どうなるのかな？」、「やってみよう」という気持ちに耳を傾けた。子どもたちと一緒に探求する楽しさが味わえたと感じる。